

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.14、 No.2

巻頭言

テラヘルツテクノロジーフォーラム 会長 谷正彦

今年 2016 年 9 月 25 日～30 日にかけてデンマークのコペンハーゲンにある国際会議場 BELLA Center (図 1 写真)で 41st International Conference on Infrared, Millimeter and Terahertz Waves (IRMMW-THz 2016) が開催されました。口頭発表は 325 件 (Plenary を除く)、ポスター発表は 325 件、参加者数はこれまでで最大の約 750 人 (38 カ国) だったということです。これはコペンハーゲンという魅力的な都市で開催されたということもあると思いますが、少なくともこの分野の研究が、依然として活発に行われていること示すものと考えてよさそうです。また赤外・ミリ波・テラヘルツ波の領域で大きな貢献があった研究者に、この会議の創設者である Kenneth J. Button 博士にちなんで Button 賞 (The Kenneth J Button Prize) [1] の授与式が毎年この会議期間中に行われますが、今年は日本から福井大学・遠赤外領域開発研究センター・名誉教授の出原敏孝先生が受賞されたことは嬉しいニュースの一つでした (図 2 写真)。また会期中に 2019 年はフランス、パリでの開催となることが発表されました。なお来年 2017 年はメキシコのカンクン、2018 年は日本での開催が決まっています。IRMMW-THz 2018 は出原先生と私が議長 (Co-Chairs) を務めますので、この紙面を借りて準備状況をお伝えしたいと思います。先のテラテク通信 Vol.14 No.1 で、会場は富山国際会議場とし、9 月下旬での開催を予定しているとお伝え致しました。このとき参加者数は最大で 600 名を想定していましたが、コペンハーゲンでは 750 人も参加者があったため、急きょ会場の再検討をする必要がありました。開催地組織委員会 (Local Organizing Committee, LOC) を中心として種々検討を重ねるとともに、Advisory Committee を含む多くの方々のご意見もお聞きし、また、シミュレーションや予算的な検討も詳しく行いました。11 月 6 日に大阪大学豊中キャンパスで会場に関する検討を行う LOC を開催し、審議を尽くした結果、LOC としては IRMMW-THz 2018 の会場を富山国際会議場から名古屋国際会議場に変更することを決定しました。LOC としても、せっかく会場として選定した富山国際会議場をあきらめるのは非常に難しい判断でしたが、コペンハーゲンでの参加者数、中国でのテラヘルツ研究者の増加傾向、日本国内で見込まれる参加者数 (ほとんどの IRMMW-THz において開催地以外で、日本は最大の国別参加者数を誇っています) を考慮すると、参加者に不自由や不便な思いをさせないようにするためには、最大 700 人規模の参加者数を想定せざるを得ず、よりキャパシティの大きな会場に変更せざるを得ないというのが LOC としての判断でした。IRMMW-THz 2018 は、名古屋国際会議場で開催期間は 9 月中旬となる予定です。以上のような状況を報告するとともに、引き続き会員の皆様のご協力、ご支援をお願いする次第です。

[1] <http://terahertz.dk/irmmwthz2016/button-prize/>



図 1. IRMMW-THz 2016 の会場となった Bella Center。



図 2. 出原敏孝先生 (左) の Button 賞授与式の様子。